





Persons

716

Effects

86/8



Persons Effects

ゲリ氏が落ち込んでいるようだ。と思ったら早くも立ち直り今度は福本氏がそのような状況に陥っているらしいが、こういうのは伝染するの知らん？僕もやや落ち込み気味です。(本当はそれ程でもない)。元々表面に出さないだけで、自分のやっていることに自信が無いのだった。バンドのことにしてもあまり内部暴露的なことは口に出さないうのだった。だってカッコ悪いでしょ。そういうの。今月は初めて経験する仕事が2つ続いた。フランスの彼女から国際電話をもらった。帰国の予定を知らせてきたのだが、あずか数回物話しただけで407ラン(約11000)もかかたらしい。短い時間に多くの情報量を詰め込もうとするので、結局お互い勝ちなことになった。食えて嫌だね。獄中から2通めが来た。選考は既に終わってしまっていたのに、結果を知らぬ術もなく2週間以上前に黒川芳正によって書かれたものだった。しかし内容は好感の持てるものだった。相前後して目山麿の新作「スタバト・マール」を読む。選えてきた、あるいは狭りと残されてきた。〇〇といった点で論評の視点を持ち得ない。という程のものでもないが……。文体は「ペリヤン」伝説「風のワコクリ」とあまり変化なく(若干熟練されたか?)。大江+中井英夫+塩谷雄高だと思ふ。深沢七郎「入道滅亡の唄」を再読。真にこだねり続けて死んだ三木富雄と親友があったことになぜか初めて改めた。ドゥルズノガタ「アン・オデクス」4年分の図書券を生かして思い切って購入したものの訳者あとがきを読んだらびっくりになってしまった。時間かけてゆっくり読もうと思うが(その前にゲリ氏に貸したりして)10年以上前に書かれたものが「ポスト・モダン」としててはやされたり、日本では訳者自身が誤解したまま(それ以前の問題がも知れない)間違っって伝えている部分が多くなると思う。フランス文学の領域では生田耕作らの画期的(?)な翻訳者の出現で、言葉に意識的な出版物(笑)では著者名より翻訳者名が大きく記してある。ドゥルズのような訳の分からぬ文体に際して今回の市倉某の登場は画期的な成果だろう。他に永井荷風「ふるま物語」と文庫本の登場で購入した津澤龍彦「犬狼都市」を読む。(読む、観るとか ~ 思うと書くことの内には何の意味もなく、P.E.に書き始めてこれが好きになった。)

しょ中「裸のラリーズ」のことはかり書いて本人も辟易しているが、このところ毎月潰れているので先日のワコタイル(丁度ルナパークの前日)には行かなかった。鮎川誠が来ていたらしい。迷った末に行かなかったのだが、後で急に病んでしまった(笑)。

DISK UNIONのバーゲンでアモンデュールIIのセカンドを買った(中古)、前の持ち主の痕跡、ダブルジャケット全体に厚手のビニールをびたり、巧みながかぬよう貼り込んであり、プロブレマンの異常な神経質さに怖れをなし、帰宅してすぐ破り取ってしまった。へん。

雑誌「季節」や「現代劇」に書いていた誰も知らない文筆家。周野靖考から電話があった。「反野敬二に会う」と言。たまり行方不明になっていた。思っていたらベルリンへ行っていたそうで、どうやら以前から言っていた通りあちらに住むらしい。先日籍田氏に電話したら「日本に居たってしょーもねーじゃん」と言っていたが、「どこが良いところがあれば住んでもいいとは思いますが、海のものとも山のものとも知れぬ毛唐に囲まれて暮らすのは恐怖だ。

「私達は何かを感激したときには手を叩く。それはけたたましく速く衝動的なのである。衝動だから咄嗟なのだ。それはすぐに止んでしまう。だが、この手拍子はそれとは違うのだ。これはリズムなのである。そう、これは民族なのだ」と気がついた。(深沢七郎)

さて、ラリーズを観て気づくことは、演奏を含めて「歌」的であるということだ。水谷のギターは時には「ギターを弾く」というより、単に「音を出している」といった風に聴ける場合さえある。対象的に反野敬二の不失者はあくまで「演奏」的だ。反野が自身を「本質的にはボーカリストだ」と認める場合でさえ演奏的である。不失者が反野のワンマンを離れて「バンド」である色彩を強めていたことも理由としてあるが、ボーカルの声質よりもそこに聴ける歌詞に見られる「私」へのこだわりがより歌を離れ、演奏的傾向を強める。それは「歌」にはなり得ないだろう。「歌」に登場する主語は「私」であれ、まだ知られざる他者を含めた「私たち」であり、聴く者の自己投影のシステムをふまえてくまで復讐的だ。かねがね思っていたが、ギターとドラムは近い楽器であり、その音は衝動的であり感情的だ。真にメロディアスな楽器はベースだと思ふ。ベース演奏に際してリズムは約束事として現れ、ギターやドラムはむしろリズムの破壊として近づく。特にギターやドラムの楽器を演奏することは「等身大」の表現になり得る。しかし「歌」は時には演奏の熱の昇華する段階にあって、等身大を離れ、それより大きなものに近づくことを可能にしてしまう。ラリーズはその大きなものをこそ守るバンドだ。従って右翼的といわれる理由もそこにある。「私」の問題に肉して中矢君に尋ねるところによれば「工廠冬の試み」とは「自殺などという手段を用いず、存在しながら存在しないことだ」という。「私」の存在と「歌」との関係に於ける、これはあるいは新たな方法なのかもしれない。(7/23) ここで光東夜のドラマーが「ギタリストの指先を凝視するのを僕はスルドイと思うが(ché-shi zuiに加わったときでさえそうだった。)、the Work、で来日時のクリスカトラーが思いのほか、時には椅子から転げ落ちそうになる程のラフな演奏(?)を心掛けていたのと共に印象的だ。M.M.D.のときのM.グレイブスの汗とは質が違ふと思う。僕は今日これから生まれて初めて成田空港へ行って来る。(7/25) 34アスな二枚目(笑)より

収入

参加費 (600 X 33)	19800
御祝儀 (中重先生より)	5000
	24800

支出

会場費 (1:00~9:00)	43500
マイク	2000
em	3000
チラシ (500枚)	7000
パンフ (60冊)	6000
連絡費他	3500
	65000

というわけで 大阪 - 東京 2往復分くらいの赤字ですが、福本+こ部さんや倉地くんとも会えたということで……
この手のイベントでこの額の赤字は恥という気もしますが、大きな原因はなるべく切り替えてということをしたくなかったのでムダが多くなったのと、観に来る人が少なかった事。

全部集中して観ていたわけではないのですが、けっこう面白かったと思います。私は特に地明の地に付いた表現と、楽しみにしていた福本+こ部氏 (の特にフィルムのご) が印象的でしたが皆さんはいかがでしたでしょうか。

集めたアンケートの中から割と批判的な物2点を紹介してみます。これを機会に表現についてもう一度考えてみるもよし、マイペースで続けるもよしといったところ。
しかし、『勝負に未い!』というのが凄いですね。ぜひ目のさめるような企画でもやって我々をギャフンと言わせていただきたいと思います。
アンケートの人はどちらも前半であきれて帰ったようですが、実際5時間半も集中して観ようとする、どんな内容でもさすがに疲れるようです。

当日の音の表現に関しては、一応当方でも録音してありますのでダビング希望の方は申し出て下さい。
写真とった人は、見せてもらえると嬉しいです。実費は払います。

先日は お疲れ様でした。

1. 公民館運動を何で知りましたか？

700ジャ

2. 一番興味深かった出演者は？ 手紙はありますか？

藤村紀子 宇野重吉

①音は面白いけど話はおもしろくない

② 藤村紀子

③ 藤村紀子の手紙が面白い

3. 今回の進行や会場について一言

・各々何とやら、この紹介ももう少し

おもしろいと思う。(11月27日に書いているだけではないので)

4. パンフについて一言

・パンフの作りはいいけどおもしろくない

5. あなたは何か表現活動を行なっていますか。又、その内容

・歌集作り(おもしろ)

6. 今後お公民館運動のような活動にかかわりたいと思いますか？

・おもしろい(おもしろ)だけか参加する様子

公民館運動はおもしろいけどおもしろくない

7. 今最も興味のある事は何か？ ↓

・西洋庭園

と、おもしろい参加してくる人が少ないから
真実ばかりにする悪循環 (おもしろ)

氏名 水田麻紀

住所 西宮市松山町13-9

TEL 0798-67-7912

1. 公民館運動を何で知りましたか？

PAOBAB

2. 一番興味深かった出演者は？

カナコ / カツオ

それ以外に何ですか？

他のよりまし中から

他のやつら 三三がけにせよ

3. 今回の進行や会場について一言

司会の人ばかり日本語を話せ

(不明な点あり)

4. パンフについて一言

パンフにたまたま

(福田氏の呼びかけのこころ)

5. あなたは何か表現活動を行なっていますか。又、その内容

「SKIZO SKIP」 勝負に来い) PAOBAB あり(同人雑誌)

6. 今後も公民館運動のような活動にかかわりたいと思いませんか？

はっきり言ってお、あまりに作品以前のものはかりである、あんなのこんな人あかんよ

7. 今度も興味のある事は何ですか？

みんなもっと発言して下さい。自分の周りのものを良く笑って下さい。小言はない。(自己満足は止めようぜ)

住所 杉本多津

職業 杉和川中1松町38-16

職業 土木監 生年月日 59'9/28

○ 少々キツイ事を書いたが、後はこの種のイベントをそれだけで評価してはダメ。それだけに、腹立ち、小言はないし、今後こういう催しのために気づけて欲しいかと、もし、この文に反論が欲しいなら手紙で下さい、

と、今 倉本氏より手紙届く。これにこに余白があったので(投稿ではなかったのかもしれないが)掲載) 少くも。この柳本という人には反論を書きたいと思っているのだが、パンフの狭いスペースとはいえ、こんな書物にはすぐ腹を立ててしまう。大人げない。「他のよりまし」というのはもう少し説明したほうがいいと。結局これだけでは彼の好みをバグセンと南が持っている主観の問題か、感受性か、たかパンフというのはこの自我の強さが出ていると。か面白くないかもしくはない。と、今 自分勝手な怒りもあはまり反論を書くのもムリにない。はからし。あやうく彼のフナにはまるといふが、手紙でも下さりな。

「映画」 「これパンフ」 単純明快なかつしの西部劇。含みかえり。走り馬が美しい。男たちが格好いい。リンダ・ハントは女を演じてる。「ういさピクセン 大巨乳なち」ラス・マヤーの監督はたか60年代後半の「たか女(?)」などのパンフと、20代。SEX場面は喜劇的であり、大巨乳(170cm) 僕より高い?大きい? たか740、180、J. ウォーターズ(セシリア) ぽい息いかにしている。

☆ここんこ（むかしからか。）マンガばかり読んでた。『西遊妖猿伝』の5巻目は煬帝の墓室を舞台に大スペクタクルを展開。この調子だと全20巻ぐらいまで行きそうな感じ。雄大な作品です。／ついでに買いそびれてたムック『諸星大二郎・西遊妖猿伝の世界』も入手（イメージ・レコードも出ているらしい……さすがにそこまで集めようとは思わない。）、単行本未収録の『蒼い群れ』が再録されているのに注目。これは、労務者が文字どおり臓器を切り売りして生活している近未来を描いた問題作で、『スーパーフィクション』誌に拾われるまで多くの出版社に掲載を断られたといういわくつきの作品。よくもこれだけ救いのない作品を描くもんです。だけど、こういうのを読んで「諸星には人間が歴史を変革していくという視点が欠けている」、「人間の無力さしか描かれていない」などと一面的な批判をするのは（いるんだ、そういう人が）、誤っていると思う。「描きたいから描いている」実作者に対して、勝手に読者自身の思想の代弁なり絵解きを期待して、それが叶えられないから作者を批判する、という倒錯の図。自分の信じる「正義」が万人にとっても「正義」であるという無前提な思い込みに基づく言動は困りものですが、そういうのって一向に無くなりそうもない。／『家族天国』、『馬鹿パンザイ』は毎度お馴染み蛭子能取、雑誌掲載作品が片端から単行本化されていく。最近手抜きが目立つけど、それでも面白い。「ヤクザもの」に新境地の期待（おっと、「期待」してしまった）。／『文化人類ぎゃぐ』（相原コージ）はいろんなギャグマンガのキメラの如き作品だが、本作品では泉昌之っぽさが強い。もっとも泉昌之だってキメラ的であって……と考えていくと、昨今のマンガでキメラ的でないものを捜すほうが困難であることに気付くのですが。／『寿五郎ショウ』（江口寿史）を読んでもそんな感じはするけど、既に彼を模倣するマンガ家も出ているわけで、オリジナリティーという言葉が似つかわしい作家は本当に少ない昨今ってことですね。諸星とか蛭子はそういう意味で希少な存在だ。「だれも彼らの絵を描けないだろう」し、そっくりに描けたところでしょうがないと思う。

次回祐天寺は9月15日(月祝) 昼1~5時
9-7ショウアップにしたいけど何か案ありませんか

☆マンガ以外では『現代犯罪百科』（増刊週刊大衆）、『[犯罪]の同時代史』（松本健一・高崎通浩）の2冊の犯罪もの（最近この種の単行本の出版が目立つような気がする。）、『大疑問』（QA増刊。「なぜだろうなぜかしら」もの。）、『日本語の悲劇』（朴炳植著。「音韻変化の法則」を武器に日本語のルーツが古代朝鮮語であることを明かし、更に日本の古文書を朝鮮語で読み直すことにより古代史の謎を解読する。画期的な研究。）、『ヒトはなぜ進化するのか』（中原英臣・佐川峻著。ウィルスを、種を超えて遺伝子を運ぶ道具としてとらえる「ウイルス進化論」の書。）等を読了。最後の2冊は、いずれも専門的な内容を一般読者向けに噛みくだいて書いたもので、読みやすい反面物足りなさも残るが、なかなか刺激的。

☆テレビではNHK再放送もの『知られざる脳の世界〜ザ・ブレイン』が面白かった。8回放送のうち2回分しか観てないけど、録画したので残りも今度ゆっくり観たい。／映画では『ピンク・フラミンゴ』の初の正規劇場公開版を観たが、映倫審査済みでボカシが入ってチャカルトもアングラもあつたもんじゃねーな。字幕スーパーも極端に読みにくく、日本版で観るメリットは何もない。映画自体は、ミもフタもない不道徳性が愉快痛快です。外人客には言葉使いの下品さで受けた様子。英語圏の住人だったらもっと笑えるんでしょう。

☆では、また。明日投函するけど、PEと行き違いかな。

19860803

★ 7/24 「インターナショナルの240分」と150分位みる。竹田工人の音かその端をとりきって下よな感。ここで、音楽の磁力についてシオランが何か言ってることを思い出そうとしたけどでてこない。それで「生誕の災厄」からの引用でお茶を濁してみる。

- ・「朝から晩まで、一体何をやってるんです？」 「自分を我慢しているわけですか。」
- ・「誰にも打ち明けず、何もないことを告げろ。下宿の友だちの、書物は書かなくていい。」
- ・仏教では怒りを指して「精神の汚点」と呼ぶそうだし、マニ教では「死の樹木（木）」と名づけている。それは分っている。しかし、分っていることと自分の役に立つ？
- ・神とは一個の病氣である。誰もそれがもって死ぬと信じているものだから、みんな直ったと信じこんでいる。そういう病氣だ。
- ・時には食糧種に足りなくなる。ただし、誰彼を喰らう薬（みみ）を食ったあと、それを吐き出してやる薬（みみ）のために。

7月29日、大阪へ行く。有名なお入屋に

盛り上がりを感じていった。

ちよっと立ち寄るとボウレたので思わず

この時たまたま再会できた大学の先輩によ

交番に駆け込もうとして街をうろついている

ると、昔は 維新派も放尿脱糞、一升

と動物臭かしてこる。ひきよせられるように

一気飲みして吐くなど大変活気に満ちた

えちらの方へむかうと動物屋があり、店先

ものな、たそうで、大阪国際演劇祭参加

には小猿、仔沢、熊、小嵐、小猿、そ

作品だということもあるのかしら。今回は、

の他、えたいのしれぬ小獣、艾がうろついている。

これを書いている今、隣りの庭を一人の男が

小猿の座っているオリの中には仔アヒルがいて

散歩している。同じ所をぐるぐると三時間

オリの中に垂れてくついている猿の一物をしまりに

伍、ぶつぶつと時には声高に、身振りをまじえ

つづいているのに彼はじくこもしない。とこの

ながら……。その外様は殆ど艾居や舞踏の世界と

時、犬が脇を駆け抜けていく。目で追ってやと

同じだが、表現行為という枠組の中でやる行為

その大は魚屋の店先の、魚が入った発泡スチ

いかに安全地帯に言えることよ……。8月2日、公運

ールに放尿し始める。たちまち怒声と笑

大阪場所 印象に残ったのはしんべん

声かき起こる。飼いはは々と振り向いた

というグループ。維新派の艾居で生演

私の目に異様な人物が写る。半刀ボンた

奏していたし、2日の11時過ぎ、通天宮近

けしか身につけない男性が、片手にじかに

くの神社のそばで休んでいると、4、5ドッ

魚のアウを握りしめて歩いている。この近く

ヤの仕事で練り歩いてきた。その人たち

の生國魂神社で、もうすぐテント、艾居、

か同じ公園に出るとは……。理由で、

「日本維新派」が始まるので、つまり私は

あと向井さんの地味な先生の一緒に歩いて

その役者が、小道具を持ってうろついている

ユカ夕着て唄った。宇都宮、藤本組のオリ

のふと思う。だが、この維新派の「路地坂の祭り

ゴールのような演奏とフラッシュライトの点滅

という艾居には殆ど逸脱したところがみられ

するしを20本以上使った視覚効果。それ

なかつた。よほど街角の方が、けいたいだつた。

かろ、今回は限ったわけではなすが、客は小

艾居の装置は壮大で、10m位の高さ

いのは仕方ないとして、出演者が他の人の

まで丸太が組み合わされておき、その回りを

をあまり見ないのはどうかと思つた。自分

いる。と大きな障子の、とリ、困っている。劇中

の出番以外は外にいる人が多かった。僕

ではその障子に大きな自転車の影が、突然

らやり始め、大時なんか、人しかいなかつ

大吾声と共によぎったり、急に外の方が明

た。見られたという気持ちには全くない

る。つづいて、障子もとんとんと叩く音に、取り

か、つまらなければ出ていけばいいが、他

囲まれたり、と効果的に使われていた。劇

の人物がどういふことをやるのか、興味か

の内容は、転形劇場風、というより殆ど舞

ないのか。最近感じるのは、自分のことをしる

踊の世界だ。セリフはあまりなく、抽象的

のは熱心だが、他人の話に聞き流す傾向の人が

ラストでは、舞踏家が二人、客演してシーンの

多いということ。